



神奈川県  
社会福祉法人  
経営青年会通信

# untitled

2024年3月31日  
NO.59



<http://www.kana-pie.com>

[untitled]肩書や、形にとらわれず、自由に広がりのある活動を目指して・・・



## Topics

1. 第26回全国社会福祉法人経営青年会全国大会・・・P.1-P2
2. 神奈川県社会福祉法人経営青年会宿泊セミナー・・・P.2
3. 神奈川県社会福祉法人経営青年会名刺交換会・・・P.3
4. 令和5年度第2回神奈川県社会福祉法人経営青年会総会研修会・・・P.3
5. 関東甲信越ブロック社会福祉法人経営青年会総会研修会・・・P.4-P.5
6. 会員施設紹介・・・P.6
7. 各究委員会報告・・・P.7
8. 今後の予定、新入会員紹介、会員状況・・・P.8

### 第26回全国社会福祉法人 経営青年会全国大会 R5.10.26-27 広島県

26回目となる、社会福祉法人経営青年会全国大会。新型コロナウイルス感染症5類移行後初開催となったことが影響したのか、申込みが大会初めての早期満了となり、当初の定員から拡大した結果、運営スタッフ含めた400名近い参加者が広島の地に集まりました。

開会式後は全国経営青年会の会長村木氏による「全国青年会のいま、これからめざすもの」と題した基調講演。我々社会福祉法人がVUCAの時代を生き残っていくために、社会から必要とされる意味を今一度考え、存在意義をどのように明示していくのか。社会福祉法人だけで取り組むのではなく、タテとヨコの繋がり、他の領域の

事業者と繋がり発展させていく共生、協働(Co-Creation)が必要であるとのメッセージを会場に投げかけ、新時代を切り開く当事者として、青年会と共に新しい福祉を創っていくという力強い言葉で締めくくられました。

厚生労働省社会・援護局福祉基盤課長田中氏による行政報告「地域共生社会の推進と社会福祉法人をめぐる諸課題」、休憩をはさみプロ野球解説者の達川光男氏が登壇。広島東洋カープ現役時代のエピソード、監督時代のエピソードを交えた軽快な語り口で参加者を惹きつけていました。

1日目最後の講演は、「商工農福連携による地域共生社会の実現に向けて」という演目で株式会社八天堂ファーム代表取締役林氏、社会福祉法人宗越福祉会伊藤氏が登壇。県立広島大学大学院にて出会った縁で連携に取り組んでいる商工農福事業についての事例紹介でした。農業分野と福祉分野の課題解決とそのサステナビリティを高めるために、福祉分野(生活困窮者等の就労支援)を社会福祉法人が、商業分野(農地運営、卸・小売販売手配)と工業分野(商品製造)を八天堂ファームが担うという、企業と社会福祉法人連携の新しい可能性を示唆する内容でした。開発されたシャインマスカットを使用したクリームパンが参加者に振



舞われ、商品としてのクオリティの高さにも感銘を受けました。

大会1日目終了後には同会場内で懇親会が開かれ、全国各地からの参加者、講演者が交流。会場内には大会二日目の登壇者、オタフクホールディングス株式会社の佐々木氏率いるオタフクによるお好み焼き屋台にが登場。本場の味に舌鼓を打ち、尽きない会話と共に和やかな時間を過ごしました。

大会2日目、わが神奈川青年会の井田会長が第一分科会に登壇。従業員の健康を経営、投資(成長)の視点で捉え、戦略的に実践する健康経営について、社会福祉法人での取り組み事例を交えながら、業務効率化を考えた健康基盤の安定化・強化について他登壇者と共に意見を交換しました。





「日本の経営2.0コーポレートガバナンスとファミリーガバナンス」という演題で、前夜の懇親会で出来立てお好み焼きを手渡していた佐々木氏が登壇。氏は、創業者一族による承継が続く「日本の経営」が、100年、200年と続く独自性と優位性があると確信。企業は一族のものではなく、従業員と消費者(社会)のものであるとの考えを共有しファミリーガバナンスを定め、それをコーポレートガバナンスとしても反映させるまでの過程等、ファミリービジネスも多

い我々の業界にも通じており、深い関心を集めていました。

次期大会開催、兵庫青年会の熱い挨拶で再会を約束し、2日間の大会は幕を閉じました。

総務広報委員 大滝愛子



## 神奈川県社会福祉法人 経営青年会宿泊研修 R5.11.27-28 箱根 水明荘

令和5年11月27日(月)・28日(火)に、私たち経営青年会の金澤副会長と山室監事をお招きして、『地域ニーズを把握した事業展開と人材採用の現状とこれから』をテーマとした、宿泊研修を開催しました。

金澤副会長が副理事長を務める社会福祉法人敬寿会は、山形県・宮城県・埼玉県・東京都・神奈川県で介護事業を中心に事業を展開され、山室監事が理事長を務める社会福祉法人一燈会は、一燈会グループとして、医療法人、株式会社、協同組合も運営されており、それぞれ、法人規模や事業展開に魅力を感じました。

事業展開する目的や効果として、金澤副会長からは「法人が大きくなることで得られるスケール



メリットは大きく、離職防止や人材育成、そしてケアマネ等の試験に合格した際にポストも与えることができ、本人や法人の成長にも繋がる。」と仰っていました。

一方、山室監事からは「社福だけの運営だと上手くいかないことがあり、今のパワーバランスで言うと、高齢介護や障害福祉の事業をより展開するよりも、農業・雇用・保育・スポーツなど、周辺事業(地域活性領域)に力を入れた方が私たちの強みが出るのではと考えている。」と仰っていました。

職員の採用や定着については、金澤副会長からは離職防止のために全職員に行っているアンケート、常勤が年2回、非常勤が年1回実施する面談、看護師を採用する

際の年収提示例(中間管理職・一般職)の説明があり、山室監事からは自分達が大切にしている「生きがい」を表彰する「生きがいイネ!一燈賞」や「生きがいマイスター賞」の説明があり、大変、参考になりました。

上記以外にも多くの考え方・手法を学ぶことができ、改めて社会福祉法人として、地域福祉の維持・向上に鋭意努力しなくてはならないことを再確認することができた、とても素晴らしい研修でした。

最後に講師を引き受けてくださった、金澤副会長と山室監事に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

研修委員 押谷英則





## 神奈川県社会福祉法人 経営青年会名刺交換会 R6.1.16 ホテルプラム

令和6年1月16日ホテルプラム横浜にて会員交流会を開催しました。会員交流会の参加は24法人、36名の出席でした。今年は特に新規入会の方の参加が多く、積極的な名刺交換が行われていました。

新型コロナウイルスが5類になって以降初の名刺交換会だったので、話にも花が咲き、大変有意義な時間を過ごすことができました。来年も皆様とご一緒できることを楽しみにしています。

総務広報委員 渡邊成仁



## 神奈川県社会福祉法人 経営青年会総会研修会 R6.2.15 エキニア横浜

令和6年2月15日、横浜駅近のエキニア4階ミーティングルームにおいて、令和5年度第2回神奈川県社会福祉法人経営青年会総会が開催されました。井田会長の挨拶より開会、会員総数96名、総会出席者数31名、委任状42名、合計73票となり過半数を満たし、会が成立することが確認されました。令和5年度収支補正予算（案）、令和6年度事業計画（案）、令和6年度収支予算（案）について審議され、質疑等も無く採択され承認されました。

また、本年度に入会された9名のうち、6名の新入会員に参加、それぞれの方に一言の挨拶をいただきました。早速、委員会に入られた方もいらっしゃり、今後の青年会活動では活躍を期待される声もあがっていました。

### 《研修会》

「我がまま経営 一人一人が主役になれる」をテーマに株式会社MIYACOを創業、株式会社一（ICHI.INC）を経営する中馬一登

氏が講演しました。

MIYACOは教育・人材育成事業、地域創生・観光事業、コミュニティづくり事業、アート・デザイン事業、食・健康づくり事業の5事業を展開している企業であり、様々なミッションに取り組んでこられました。

印象的だったのは氏が動物占いをマネジメントに取り入れているという点。人材は「しっかり者」「いい人」「天才」の3タイプのチームに分類され、ジャンケンのような三角関係を形成しています。個々に占った方も多かったようで、情報交換会では動物占いで盛り上がったテーブルもあったようです。飲みニケーションを大事にしている中馬氏、共に成長していけるよう、良い人間関係構築はこの業界でも共通で重要であると改めて感じさせられました。

総務広報委員 五十嵐大輔





関東甲信越静ブロック  
社会福祉法人経営青年会  
総会研修会  
R6.2.21-22 長野



本総会・研修会は令和6年2月21・22日に長野県ホテル国際21で開催された。全参加者数125名、うち神奈川県8名が参加した。

開会挨拶では、長野社会福祉法人経営青年会会長萱垣憲英氏が生産年齢人口減少、長野県知事阿部守一代理健康福祉局高出氏が、能登半島地震をうけて災害弱者への支援重要性和青年会の活動、長野県社会福祉協議会会長三木正夫氏が、能登半島地震で応援することの学びから福祉現場のやりがい、長野県社会福祉法人経営者協議会会長佐藤正雄氏は時代を創造する若き青年会で自己研鑽し仲間と切磋琢磨する機会の大切さについて述べられ、最後に全国社会福祉法人経営青年会会長村木宏成氏はこの会を準備された長野県青年会への謝辞、介護報酬改定に触れた後インフレのマインドを変えていく必要があり、このタイミングでの研修会はとても期待していると述べられていた。

(以下、講演内容)

講演1「リーダーのあなたに伝えたいこと」全国社会福祉協議会会長村木厚子氏

村木氏は過去の自身に起きた郵便の事件について触れられた。大阪地検での164日間拘留された体験は学びが多く、前日まで無意識に支える側と思っていた自身が拘



拘留一夜にして支えられる側になり得ることが思い浮かんだ。1年3ヵ月の裁判を乗り切るのに必要なのはプロの支援であり、担当の弘中弁護士から何度もどう戦いたいか聞かれ自分の戦いと気づかされた。伴奏型と自律型の支援が大切であり「真実を貫け」のコメントと知人友人の署名はとても励みになった。冤罪はどうして起こるのか考えると周りから信じてくれる人が居なくなった時に自白してしまう「誰かのために」を考え、まだ自分の役割があると思った時頑張れると悟った。一方的に支えられるだけでは強くなれず支えることも大切とされ、入所施設では希望を伝えすぎるとスタッフが疲れると考え、諦めることを覚えてしまうのが辛かったと体験した方にしかわからない貴重なお話を聞くことができました。

講演2「地方発『社長学』のススメ〜Good companyになるために

〜」株式会社サンクゼール代表取締役社長久世良太氏

久世社長は最初に会社は地域の宝、お代をいただきその中で経費をコントロールし新しい人材を育てより良い製品に繋げお代をいただく、このサイクルを繰り返し地域と交わることで唯一無二の会社となると述べられた。サンクゼールの生い立ちは、くずりんごと言われる落ちた青果を安く買い寸胴で煮詰め砂糖を加えジャムにしてペンションで出したのが発端であった。ペンション経営はベッド数に売り上げが依存し食事準備、ベッドメイク、掃除などの重労働は長く続けられないと考えた先のビジネスモデルであった。斑尾高原農場をブランドとしてジャムを販売する商売は売れるとわかったと他者が参入し価格競争となり、資本力の高い企業が勝つため他の道を模索してきた。フランスでりんご産地の農家を視察に行き青果として売らず蒸留してお酒とし付加





価値を付けた販売を知り参考にした。会社として実態が必要と判断し自社ブランド工場を建設し、レストランやワイナリーも開業した。当初は上手くいかず融資の返済に更なる借り入れのスパイラルを経験したが、この幼少期の経験が今の経営のモチベーションに繋がっている。転換期は2億5千万円の出資者との出会い、ブランド力を伝えるため直営店を出店。自分の価値を外から判断されると気づいた時に日本独自の良さを見直すきっかけになり量ではなく質を上げていくこと、そして人を大切にする経営を目指し働いている人を労うのが仕事と考えるようになった。この研修では苦労された幼少期から今の企業に至るまでの経営の本質と人材の対峙方法についてたくさん学ぶことができました。



講演3「みんなが幸せになるために」伊那食品工業株式会社 最高顧問塚越寛氏

企業は何のために存在するのか？の問いに社員全員の幸せのためを第一に考えるとされ利益を上げることも大事だがそのしわ寄せが人件費に偏ってはならないとした。仕入れ先も販売先も幸せを感じることが目的となり、その結果信用を得ることができると考え、目指すは家族で成果主義ではなく年功序列を実施している。大事なのは手法ではなく目的と据え福利厚生は会社が全額負担するがん保険加入に始まり「年輪経営」年輪



は重ならない毎年右肩上がりを少しずつでも着実に実行して50年以上増収増益を維持し、研究開発型企業を目指し全社員の1割を研究職に位置づけるなど斬新な企業風土を実現されていた。他にも朝の清掃など部署を超えてみんなでやることを習慣づけており600名の社員全員に「家族」が浸透していた。会社がなくなること少しずつの成長が永続に繋がり希望が持てることが幸せと話され、会社が嫌で辞めた人は一人もいないと自負されていた。漢字の八の意味を捉え末広がり的大事であり誰にも平等に接し偉ぶらず儲ける目的でないと堅く意思を持ち上場しないことを決めている。ノルマの経営は縛られるため自由度を優先する。利他は損ではない何かの形で帰ってくると考え、社員の人間的成長の総和が会社の真の成長であるとされた。この講演では人が

会社を作っていてそれと経営者はどう向き合えば良いのかのヒントがたくさん詰まっていた。

2日間にわたる講演はどれも素晴らしく経営青年会らしい内容をふんだんに盛り込んだ有意義な研修となりました。

最後の総会では各都道府県会長が今年度の活動について報告され、神奈川県井田会長は研修委員会、総務広報委員会、各研究委員会そして会員獲得など活発な活動報告をされました。

各都道府県の青年たちとも広く交流することができ、そのコミュニケーションのなかでもたくさんの学びがありました。とても有意義な機会となりました。

総務広報委員 広嶋稔之





# 会員施設紹介



『こどもにふさわしい生活の場として』～実家のような保育園～

社会福祉法人あららぎ福祉会は、令和5年度で設立44年目、以来座間市にて保育事業のみ1施設で運営しております。無認可から数えて50年目のメモリアルイヤーとなります。

## 「きっかけはK」

1974年9月、磯野家の三男Kが1歳の時に、Kの遊び相手として元内職仲間のこどもMを仕事の間預かることになりました。オイルショックの影響で内職仕事がなくなり家庭外での仕事をする理由でした。当時はベビーブームで地域にはこどもが沢山おり、認可保育所が足りていない状況で“こども預かってくれる人がある”という噂はすぐに広まり、1年後の75年には無認可の小規模保育施設となり、77年には県・市より助成を受けられる施設となりました。現在の施設に移るまで、一軒家の二階で0から2歳児のこども20名の保育をしていました。



## 「玄関には靴がいっぱい」

当時の様子、私Kの記憶では、早朝から大人とこどもがたくさん玄関を開けてやってくる。昼間は大人がいそがしく保育をしてこどもはさわがしく過ごしている。夕方にはお迎えの大人がたくさん帰ってきて大人同士楽しくこどものお話しをしている。日曜日は保育がないので家がとても静かに感じました。そして狭い玄関のたたきにはいつも靴がいっぱいでした。

## 「私たちの保育園をつくろう」

2年目、3年目には認可保育園に入所が決まり転園する子もいましたが、いその保育園の保育が良いと、認可保育園の申請をせずに通い続ける保護者とこどももいたため認可保育所設立に向け社会福祉法人を設立。当初は広めのプレハ



ブにでも引っ越しと考えていましたが、保護者や沢山の座間市民の協力と応援があり、300坪の土地に新築鉄筋コンクリート造90名保育可能な広さに60名の定員という立派な施設が建設されました。1980年4月 認可保育所いその保育園の誕生です。

## 「子をもつ親の思いをたくされて50年」

設立時には“実家に預けているような保育所の実践”という思いがありました。現在は実践されておりましたが、こどもと大人が共同生活のなかでたすけあい、安心できるあたたかい場所づくりを実践しております。この“あたたかさ”につきましては当時と変わらずに今も受け継がれていると私は思っております。

## 「これからの保育所」

いろいろな保育所があってよいと思いつつ、私共は無認可保育園の時のように、いつまでも子どもと保護者に求められる保育園でありたいと願います。

いその保育園 園長 磯野一途



## 保育研究委員会

令和6年1月31日（水）に保育研究委員会研修会が開催されました。講師に鎌倉女子短期大学の寶川雅子様をお招きして「不適切な保育」をテーマに講演いただきました。

寶川様は、乳幼児精神保健・保育・子育て支援を専門とされ、地域の子育てに関する取り組みや研修講師などで活躍される一方、数々の保育に関する書籍を執筆しております。今回の講演では、不適切な保育をテーマに管理職や一般職を対象として、子どもの人権保護に至る背景から具体的な事案

まで、保育の現場に寄り添った内容でご講演いただきました。わずかな言葉遣いや意識の違いで不適切と定義づけられてしまう保育現場において、職員同士の円滑なコミュニケーション、管理職のマネジメント力の重要性を学びました。参加者にとっては日ごろの施設運営や保育を振り返り、改めて意識する大変重要な機会となりました。素晴らしい研修を行ってくださった寶川様に心から感謝申し上げます。

保育研究委員会 小星直樹



## 各研究委員会報告

～法人が担う専門性を活かした経営戦略のために～

高齢・保育・障がいの各分野で抱える固有の課題に対し研究を行うことで、年々変化する社会福祉制度に対応するべく各法人の経営戦略に活かせる取り組みを実施しています。

## 高齢研究委員会

令和5年度高齢研究では令和6年1月28日（日）より7日間、若年性アルツハイマーをテーマとした映画『オレンジ・ランプ』のオンライン上映会を開催しました。

今回の研修では16名の会員や会員施設の方々にご参加いただき『社会の理解や共生の重要性について深く考える機会になった』『まずは自分の意識から変えていきたい』等のご感想を頂いています。

映画『オレンジ・ランプ』では、39歳で認知症の診断を受けた只野晃一さんの実話に基づいた作品で、順風満帆な生活を送っていたある日、突然“認知症”の診断を受けた晃一（主人公）が感じた

社会での葛藤や将来への不安を丁寧に描かれているとともに、家族や職場、地域の優しさに支えられながら力強く前に進んでいく主人公の姿に、私自身とても勇気づけられました。

私も含め高齢者福祉に携わる皆さんにとって、認知症理解への重要性は語るまでもありませんが、“今までの当たり前が失われていく当事者の心情”や“本人の葛藤や認知症であることの勇気ある告白を周囲が受け入れるまでの課程”を考えることができました。

感染症予防のためオンラインによる上映会だったので、参加された皆さんと直接関わることはありませんでしたが、今後も様々な研

修を実施していきます。

最後になりますが、今回ご参加頂いた皆様に深くお礼を申し上げます。

高齢研究委員会 小倉青龍

## 今後の活動予定

令和6年7月9日（火）  
 神奈川県社会福祉法人経営青年会  
 第1回総会・情報交換会  
 社会福祉法人経営青年会合同研修会  
 場所：崎陽軒本店（横浜）  
 ※総会、研修会、情報交換会を同日開催！  
 これまで参加したことがない会員の方も  
 名刺を持ってぜひお気軽にご参加下さい！

## 会員状況新入会員

令和6年3月1日現在  
 会員数 96名  
 法人数62法人



## 新入会員

岩崎 拓馬様(愛成会)  
 矢島 恵子様(峰延会)  
 江頭 幸様(三つ葉会)  
 紺野 智秋様(誠幸会)  
 古谷田 高穂様(プレマ会)  
 小泉 良太様(泉心会)  
 北沢 秀記様(伸生会)  
 萩原 美貴様(大原福祉会)

## 神奈川青年会 会員拡大中！

経営青年会では、ただいま会員  
 拡大を促進しています！



会員の理事長/施設長就任を皆でお祝い



1月には恒例の名刺交換会を開催



年度終了、研修委員会の慰労会



神奈川経営青年会会長  
 井田 友花（三神会）



神奈川経営青年会副会長  
 金澤 敬祐（敬寿会）

神奈川県社会福祉法人経営青年会  
 は神奈川県下の社会福祉事業団体に  
 所属する若手職員の資質向上、経営  
 に関する研究・研修、会員相互の交  
 流を図るための事業を行うことを目  
 的としている会です。神奈川県社会  
 福祉協議会経営者部会、全国社会福  
 祉法人経営青年会との連携のもと活  
 動しています。

同年代の法人理事長、理事、施設  
 長や事務長など、役職者の仲間と交  
 流・情報交換を行いながら、神奈川  
 の福祉を盛り上げていきませんか？  
 年間を通して、随時会員を募集中！

会員資格：神奈川県下の社会福祉事  
 業団体に所属する満50歳未満の役職  
 員で、所属法人の代表者の推薦を得  
 た方  
 会費：5,000円/年(初年度会費無料)

入会の申し込みは、青年会ホームペ  
 ージから行えます。1ページのQRコ  
 ードからホームページへお越しくだ  
 さい。

## 編集後記

今回はアプリCANVAを用いた広  
 報紙編集の第2弾となりました。青  
 年らしくICT活用を積極的に行  
 い、従来の配置から3段組の配置に  
 リニューアルし写真の挿入を増や  
 すことで、その効果が発揮され、  
 より会場の臨場感が伝わりやす  
 くなったと思います。ぜひともご  
 覧くださいませ！

### 《発行》

神奈川県社会福祉法人経営青年会

### 《連絡先》

〒221-0825

横浜市神奈川区反町3-17-2

神奈川県社会福祉センター7階

（福）神奈川県社会福祉協議会  
 福祉サービス推進部

Tel:045-534-5662 Fax:045-312-6302